

■バングラデシュ・ロシア：初の原子力発電所、10月までに建設開始

バングラデシュのハシナ首相は2013年1月23日、ロシアからの建設資金500万ドルの融資契約に署名した後、今年10月までに同国初となる原子力発電所の建設工事を着工すると発表した。計画では、ロシアのロスアトム社製の出力100万kWの原子炉2基を北西部のルーパーに建設される。予定では、設計は5月に完了し、造成工事を8月まで行い、9～10月に本工事に着工することになっている。総額40億ドルと推定される建設費の90%をロシアから調達し、今回契約された500万ドルは準備工事の費用に充てられる。発電によって発生する核廃棄物はロシアが引取り、処理するものと見られる。関係者によると、同国の主要エネルギーである天然ガスの埋蔵量は急速に減少し、10年後には枯渇する恐れがあることから、政府は原子力発電所が必要であるとしている。